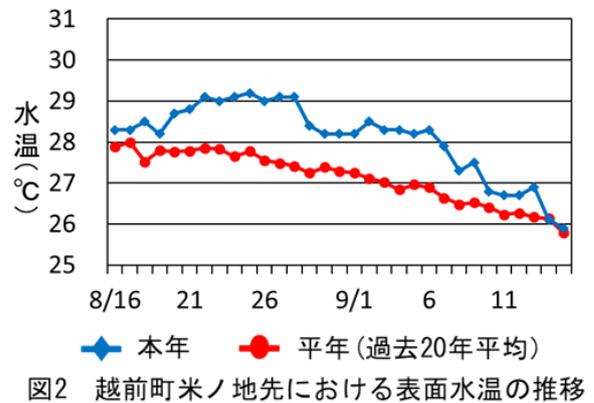
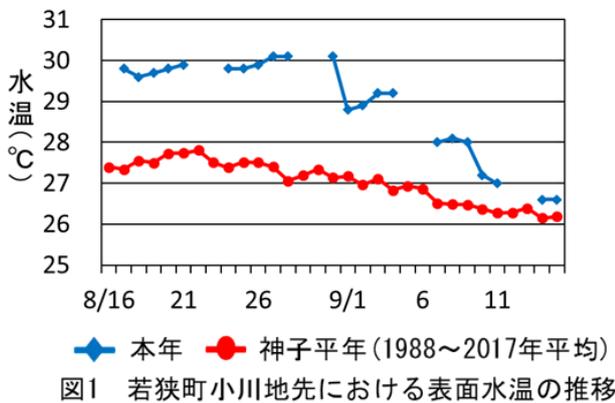




〔海の状況 (8/16~9/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 8月および9月上旬は神子平年よりはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移したが、9月中旬は平年並み (平年差±0.5℃) からやや高め (平年差0.5℃~1.0℃) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 8月中旬および9月中旬は平年並み (平年差±0.5℃) で推移したが、それ以外はやや高め (平年差0.5℃~1.0℃) からはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図2)



〔若狭湾および周辺海域の海況：8月〕

8月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で26℃~28℃と前年同様であった。水深50mでは、若狭湾沿岸で20℃~24℃と前年同様であった。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域の規模が前年より縮小していた。水深200mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が小さくなっていった。(図3)

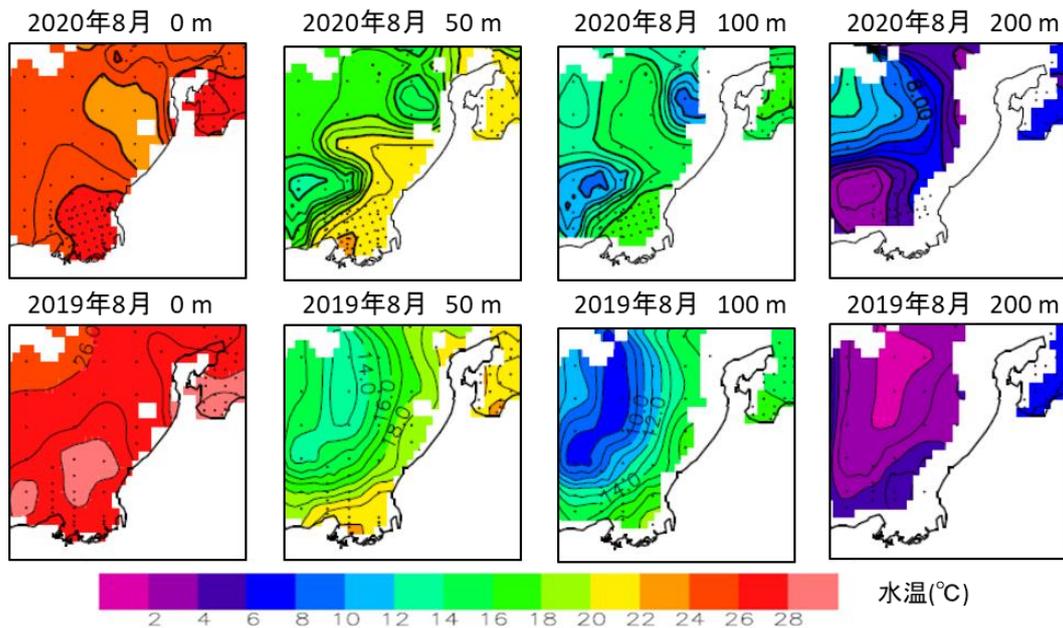


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

日本海における大型クラゲ情報

対馬海峡から東北地方と広い範囲での出現が確認されています。県内の定置網や底曳網に広範囲で入網がありました。定置網で100個/日、底曳網で10個/日を超す入網が確認され、9/24現在、日本海西部海域にやや濃密な分布があり、今後とも県内定置網や底曳網への入網が続くことが考えられますのでご注意ください。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

〔県内の漁模様：8月〕

2020年8月の県内の総漁獲量は535 tで、前年同月を196 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は378 tで、前年同月を141 t下回った。ブリ（ツバス、ハマチ）、カタクチイワシ等は上回ったが、サワラ、シイラ、ブリ（アオコ）等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は15 tで、前年同月を8 t下回った。アカエビ、ハタハタ等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は142 tで、前年同月を48 t下回った。タコ類、アマダイ、キダイ等は上回ったが、スルメイカは大きく下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(8月)

定置網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マイワシ	1,654	1,886	855	-232	798
ウルメイワシ	824	7,595	1,548	-6,771	-724
カタクチイワシ	19,268	3,728	7,441	15,540	11,827
アジ類	28,356	26,754	31,799	1,602	-3,443
サバ類	29,717	24,433	13,167	5,284	16,550
カツオ類	6,432	441	4,718	5,990	1,714
ブリ類計	159,268	99,144	118,640	60,124	40,627
(ブリ)	222	268	306	-46	-83
(ワラサ)	350	4,895	5,151	-4,545	-4,801
(ハマチ)	47,359	19,386	40,922	27,973	6,437
(ツバス)	88,259	26,448	50,346	61,811	37,913
(アオコ)	23,077	48,147	21,916	-25,070	1,161
ヒラマサ	3,135	19,838	7,433	-16,703	-4,298
シイラ	17,174	52,899	62,461	-35,724	-45,286
サワラ	69,770	230,525	123,974	-160,755	-54,204
トビウオ	1,109	385	1,089	725	20
マダイ	2,667	5,092	5,215	-2,426	-2,549
スズキ	2,508	8,800	5,268	-6,292	-2,760
ヒラメ	597	926	795	-329	-199
カマス	2,185	3,448	3,966	-1,263	-1,781
ケンサキイカ	14,466	15,249	9,426	-783	5,040
その他	19,075	17,574	21,062	1,501	-1,988
合計	378,205	518,717	418,859	-140,512	-40,655

底びき網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	515	755	1,446	-240	-931
アカエビ	14,001	20,981	18,605	-6,980	-4,603
その他	341	701	635	-359	-294
合計	14,858	22,437	20,686	-7,579	-5,828

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	779	750	1,599	30	-819
キダイ	17,966	15,996	17,019	1,970	947
アマダイ	20,435	18,020	25,812	2,415	-5,377
スズキ	312	525	1,083	-213	-771
その他カレイ	360	85	615	274	-256
タチウオ	223	60	107	163	115
メバル類	1,213	1,570	2,916	-357	-1,703
スルメイカ	22,965	77,261	10,020	-54,296	12,945
ケンサキイカ	1,356	969	5,876	387	-4,519
タコ類	12,264	9,400	13,164	2,864	-900
その他	63,990	65,525	99,593	-1,535	-35,603
合計	141,863	190,160	177,803	-48,296	-35,940

全漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合計	534,926	731,313	617,349	-196,388	-82,423

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：8月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：8月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：8月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：8月中旬～9月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ4.1 t、フクラギ・コゾクラ3.0 t、サワラ類1.9 t、マアジ1.8 t、サバ1.0 t、シイラ1.0 t

京都府…定置網…サワラ2.6 t、サバ類1.2 t、ツバス0.8 t、マアジ0.7 t、アオコ0.5 t、ハマチ0.4 t

兵庫県…定置網…トビウオ58 kg、マアジ54 kg、ツバス37 kg、シロイカ29 kg、スズキ27 kg、ヒラマサ20 kg

鳥取県…まき網…ブリ類6.4 t、マアジ4.2 t、マイワシ1.4 t、ウルメイワシ0.7 t、カタクチイワシ0.6 t、マサバ0.6 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

イワガキ養殖について

イワガキは夏の旬の味として、近年、需要が高まっていますが、その漁獲量は減少傾向となっています。そこで、水産試験場ではイワガキ資源の安定的・継続的な活用を図るため種苗生産および養殖試験を行っています。

【イワガキ種苗生産について】イワガキの採卵・採精は切開法によって行われ、孵化後のイワガキは水中をゆるやかに浮遊するプランクトン生活を送ります。日齢約 20 日で眼点が出現するため（図 1）、そのタイミングでホタテ貝殻を連ねた採苗器を水槽に入れて付着させます（図 2）。1 枚のホタテ貝殻に約 10 個のイワガキが付着するようにイワガキや採苗器の数を調整することが重要になってきます。付着後約 15 日で大きさは約 2mm になり、外敵に襲われる心配も少なくなるため、海に沖出しします。しかし、ヒラムシの食害には気を付ける必要があります、この食害は種苗サイズである 10mm を超えても小型個体を中心に受けます。水産試験場ではまだ大きな被害は受けていませんが、昨年ヒラムシによる食害を確認しています（図 3）。対策としては海水に食塩を溶解残るまで添加し、この飽和食塩水に 1 分間浸漬する塩水浴がありますが、1 度垂下した採苗器を取り上げて再び垂下し直すことは大変な重労働になることが予想されます。

【イワガキ養殖について】10mm を超えて種苗として出荷し、養殖を開始するとすると、今までのホタテ貝殻の間隔では後々イワガキの成長を抑制することになります。そのため、ホタテ貝殻の間隔を 50cm となるよう PP ロープに挟み込んでいきます。出荷サイズに成長するとホタテ貝殻 1 枚の重量はイワガキおよびその他付着物を含め 8kg にもなるため、1 本のロープに挟み込むホタテ貝殻は 5 枚程度になります。イワガキは海水中のプランクトンを摂餌するため、魚類養殖と異なり餌料コストおよび給餌作業が不要という大きなメリットがあります。その反面、イワガキの成長は海水中の餌環境に大きく左右され、出荷までの期間が海域によって数年異なるということがあります。餌環境が優れた海域では 2 年半の養殖期間で出荷サイズに成長するとされています。

【イワガキ養殖試験について】水産試験場では現在、沓、日向、世久見、阿納、仏谷、和田、小黒飯、神野浦、試験場の計 9 海域でイワガキの成長を追跡していますが、今後は嶺北も含めて養殖適地を評価していきたいと考えています。

近年、マガキを中心にシングルシード養殖というカキを何にも付着させずに養殖する手法が注目されており、その特徴として形が整っており、殻幅（厚み）があるため身入りも良好になる傾向にあります（図 4）。このようなカキは都会のオイスターバーなどで高い需要があり、全国的にブランド化が進んでいます。イワガキでこのシングルシード養殖をしているという事例は少ないですが、イワガキはマガキと出荷時期が異なるという強みがあることから、その養殖手法についても試験を行っていきます。

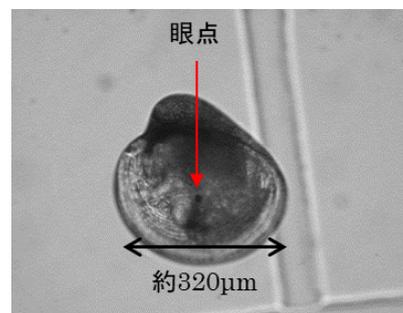


図1 付着期のイワガキ



図2 ホタテ貝殻採苗器



図3 食害を受けたイワガキ



図4 シングルシードマガキ

(企画・先端研究室 水嶋亨)